

令和4年度 東京都立井草高等学校 学校経営報告

校長 粕谷 真由美

令和4年度はスクール・ミッション、スクール・ポリシーを基盤に中期的目標を4項目掲げ取組を進めた。

【中期的目標】

- (1) 高い志と自主・自律の精神を養う。
- (2) 自らの進路を切り開くことができる人材を育成する。
- (3) グローバルに活躍する人材を育成する。
- (4) 教育力向上を図るため、不断に挑戦する教職員集団を創る。

【令和4年度 具体的な取組目標と達成状況】

令和4年度の具体的な数値目標		
①学習指導		
(ア)	生徒による授業評価、学習への意欲喚起に関する肯定的評価90%以上	○ 授業評価は肯定的評価である。学習への意欲喚起につながる個の状況に応じた指導について、継続して工夫を図る。
(イ)	家庭学習の定着（週10時間以上）1学年70%以上、2学年65%以上、3学年80%以上	△ 家庭学習の定着について、データの積み上げとその分析が十分に出来ていない。次年度は個別の実態把握を実施する。
(ウ)	第1、2学年観点別評価の実施100%	○ 組織的に実施することができたものの、不断に見直しを図り、生徒・保護者へ丁寧に説明する必要がある。次年度は、一学期評価の通知前に説明を実施する。
(エ)	教科会の実施年間10回以上	○ 教科会の会議録の内容が一部不明確であり、教科会の確認事項が徹底されない場面があるため、次年度改善する。
(オ)	国公立大学や難関私立大等入試問題分析の実施教科6教科以上	○ 各教科、科目ごとに教員が取組んでいる。次年度は、教科を超えて、成果の共有を図る。
②生活指導		
(ア)	生徒による学校評価、特別活動に関する肯定的評価90%以上	○ おおむね肯定的な評価である。生徒一人一人が特別活動に目的意識をもって取り組むことができるよう、キャリアパスポートの活用を図るなど、次年度さらに取組を充実させる。
(イ)	新型コロナウイルス感染症、校内クラスター発生件数ゼロ	◎ 新型コロナウイルス感染症による体調不良者は途切れなく発生したが、校内におけるクラスター発生はなかった。
(ウ)	学校事故発生件数ゼロ	◎ ヒヤリハットや軽微な事例は発生している。交通安全指導をはじめとする安全指導を引き続き充実させる。
(エ)	部活動加入率90%以上	△ 76%にとどまった。年度途中で不参加となる事例が複数ある。部活動への参加を奨励し、部活動を通して健全育成を図ることができるよう次年度引き続き取組む。
(オ)	部活動ガイドライン遵守100%	○ ガイドラインの生徒・保護者への周知について、改善の余地がある。次年度引き続き、部活動指導についての周知を図る。
(カ)	生徒情報を共有し指導に生かす校内委員会の実施年間5回以上	○ 10回実施。次年度は、校内委員会を定例化するとともに、特別支援教育コーディネータを各学年に配置し、チーム学校の取組としてさらに組織的な生徒指導の充実につなげる。

③進路指導		
(ア)	大学進学率 90%以上、共通テスト受験者 95%以上	○ 進路決定率85%、うち9割が大学進学者である。総合型選抜の増加等に伴い、共通テスト受験者は93%であった。
(イ)	国公立大学現役合格者 12 名以上	◎ 14名。国公立志望の生徒を最後まで指導する体制について引き続き改善を図る。
(ウ)	難関私立大学（早大・慶大・上智大・東理大）現役合格 21 名以上	◎ 26名。キャリア教育の視点から高い志の維持と目的意識の明確化を図り、引き続き多くの現役合格者輩出を目指す。
(エ)	GMARCH（学習院・明・青学・立・中・法）現役合格 129 名以上	◎ 187名。キャリア教育の視点から目的意識の明確化を図り、引き続き志望校合格に向けた指導の充実を図る。
(オ)	授業外個別指導の実施 教員一人当たり 5 名	○ 放課後等の個別指導が日常の風景となっている。今後は長期休業期間中の進路室等の利用促進や個別指導内容の共有を図り、最後まで励ます指導の実践につなげる。
④国際理解教育		
(ア)	次世代リーダー育成道場等、海外での学習機会への応募者 10 名以上	○ 次世代リーダー8名応募し6名合格。挑戦する生徒の育成に向け次年度も引き続き生徒への働きかけを行う。
(イ)	国際交流事業 年3回	◎ 台湾とのオンライン交流を新たに取り入れ、継続して取組んでいる交流事業の充実を図った。
(ウ)	英語検定 2 級以上合格者 100 名以上	◎ 116名。次年度は合格目標級をさらに具体的に設定し、学校の特色ある取組として周知する。
⑤学校経営		
(ア)	学校見学会・説明会参加延べ 2000 名、授業公開参加延べ 1000 名以上	○ 感染症拡大防止対策として事前申し込みによる人数制限を行った。次年度は公開に向けて説明会等の充実を図る。
(イ)	体罰等不適切な指導、性的ハラスメントなど服務事故発生件数ゼロ	○ 服務事故には至らなかったものの、指導の改善が必要な事例が複数あった。次年度引き続き指導の改善を図る。
(ウ)	整理・整頓の日 年間14回	○ 分掌で整理・整頓に取り組み、執務室の一部改善につながった。次年度は、より組織的に環境整備を図り、業務改善につなげる。
(エ)	夏季休暇の完全取得、年次有給休暇年10日以上	◎ 夏季休暇完全取得、年次有給休暇平均年10日以上。次年度も引き続き休暇取得の促進と、働き方改革によるライフ・ワーク・バランスの実現を推進する。
(オ)	すべての教職員が完全休養する学校閉庁日 5 日以上	○ 校内設備の工事の影響を受け、一部部活動の活動日とした。次年度引き続き、閉庁日を活用した完全休養について働きかける。
(カ)	経営企画室職員、超過勤務 月平均 20 時間以下	◎ 月平均10時間以下となった。次年度も継続して業務改善に取り組み、効率的な業務遂行に向け超過勤務の縮減を図る。

【令和5年度に向けて】

全ての教員が、指導と評価の一体化による授業改善や教育活動の改善に取り組んだ。次年度は、各教科の指導の重点を明確にし、教科主任を中心に、質の高い授業の提供に引き続き取り組む。家庭学習の定着、生活習慣の改善、高い志の維持等を継続目標とし、生徒の実態を踏まえ、自律的な学びへつながる実践を工夫する。第一志望の進路を実現させるため、自習室の活用、個別の指導の充実に取り組みつつ、適時実態把握を行い、一人一人の志を大切に育む組織体制をさらに推進したい。また、国際理解教育をさらに充実させることで、挑戦する生徒を応援する学校文化を醸成し、より多くの生徒が自ら挑戦できるよう、教育活動の充実を図る。

令和5年度は基幹職員を含め多くの職員が入替わる年度となる。紀要の継続発行など不断に挑戦する教職員集団づくりを継続するとともに、教育活動の成果を十分に発信することで、生徒、保護者を含む都民の期待にさらに応える学校を目指す。